

豊中市立第十五中
学校だより

一期一会

ICHIGO ICHIE

かき氷の
季節ですね



出会いは成長の「種」

可能性の塊であるみなさんへ



→ 6/12 3年 長崎修学旅行 パーロン体験
たいへんおもしろい中、深まる3日間でした

【茶の湯の教えから】

今から約450年前の安土桃山時代、山上宗二(「茶の湯を大成させた千利休の弟子」)の書物に「二期一会」の言葉があります。

この言葉は、「茶道で」茶の湯の会は一生に一度のものとして心を得て、悔いのないように行うべきである」という利休の教えを示したものだと言われています。



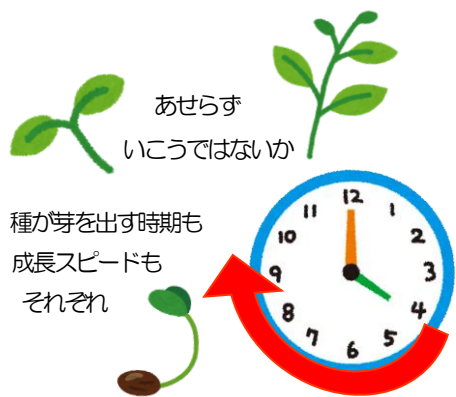
そこから現在でも「一生に一度の機会、またその出会いを大切にすることのたとえ」として使われています。「一期」は、仏教のことばで「一生」をさしています。……同じメンバーの毎日であっても、その日その時に過ごす機会は一生に一度きりです。学校生活での仲間、先輩、後輩、先生方との何気ない日々は、実は「かけがえのない出会いの連続」なのです。

【芽が出るのはこれから】

この一学期、みなさんほどのような出会いがあったでしょうか。印象に残る出会いも多くあったことでしょうか。

「新しい仲間、先輩、後輩、先生との出会い」
「学校外のさまざまな人との出会い(部活動等)」
「書物や学びから、今まで知らなかったこととの出会い」
これらの出会いはみなさんを成長させてくれる大事な「種」だと思ふのです。

……
人生を90年とし、それを24時間に置きかえると、13歳は「午前3時半頃」、15歳は「午前4時頃」となります。つまり、中学生のみなさんの夜明けはこれからであり、その「種」は「可能性の塊」であると言えます。



【あいさつ後の一言】

忘れられないあいさつがあります。教員時代に中学校からの兼務により高校へ週1時間の国語授業を担当していたことがありました。

授業終了の半年後、その高校の文化祭で、生徒会長になった高校2年の生徒からこのようにあいさつをされました。「先生お久しぶりです。(今日は)楽しんでくださいね」

なんと素敵なあいさつでした。ハツとした後に、温かい気持ちになり、このこととなり、その日は楽しい一日となりました。

ところがこのように、あいさつの後に気のきいた一言を続けるのは難しいと感じます。「7月ですね」「金曜日ですね」「お腹がすきましたね(お昼前など)」「雨ですね」などの事実を言った後に相手の言葉を持つパターンが、私は多いです。

十五中生はよくあいさつをしてくれると感じます。先日お客様からあいさつについてお褒めをいただきました。あいさつは「質より量」だと感じます。その後の会話など気にすることなく、どんどん交わし、まずは慣れていくことだと思います。

Special Thanks



- ・ 5月：篠原嘉一さん (情報モラルのお話)
- ・ 5月：郭辰雄 (カクチヌン) さん (人権のお話)
- ・ 5月：豊中市消防局のみなさま (2年救急救命講習)
- ・ 6月：コリアタウンのみなさま (2年校外学習)
- ・ 6月、7月：芦田康宏先生 (学校薬剤師)
(1年喫煙防止、3年薬物乱用防止のお話)
- ・ 6月：長崎のみなさま、添乗員さん、看護師さん
カメラマンさん (3年修学旅行)
- ・ 6月：神校長先生 (園芸高) 山下教頭先生 (豊中高)
(3年進路学習)
- ・ 4月～健全育成会、PTAのみなさま (あいさつ運動)
- …… 1学期、多くの方々にお世話になりました。
十五中生との素敵な出会いに心より感謝を申し上げ
今後のみなさま方のご活躍を祈念いたします。